



南極観測隊経験者に インタビュー



33次・38次越冬、54次・58次夏、他外国隊

かなお まさき
金尾政紀さん

国立極地研究所 地圏研究グループ准教授

(2016年7月現在)



南極では、どんな研究やお仕事をしたのですか？

極地での地震観測により、地球全体の内部の様子や地震発生のしくみ、また現在の地球表面の変化について研究します。昭和基地や野外のデータから、南極大陸や南極プレートの地下構造をはじめ、地球深部のマントルや中心核も調べます。南極で地震観測をするメリットは、プレート境界や活断層・マグマ活動にともなう近くで発生する地震が少なく、遠く離れた場所で起こる地震を捉えて地球全体を見通すという利点があります。特に最近では、「氷」の地震（氷震・氷河地震）の活動を調べています。氷震とは、氷河の先端が崩落したり、海氷が流出するときに起こる地震で、特にグリーンランドで顕著で最近の温暖化に関係すると考えられています。



平成21年度 ドームふじ基地にて



初めて南極におり立ったときの感想をおしえてください。

最初の南極は1992年の第33次隊です。それまでに昭和基地の写真はみていましたが、実際にヘリポートに着いて小型トラックの荷台に乗せられ基地中心部へ移動したときに、当時の佐野雅史副隊長から第一印象を聞かれました。そのときは「まるで月面基地みたいですね」と答えた記憶があります。それに対して佐野さんは「それは良かった、みんな工事現場みたいと言っているよ」。しばらく過ごしてみて、やはりその通りだと思いました。



一番印象に残ったこと・一番楽しかったことはなんですか？

外国隊も含めて何度か南極にいきましたが、一番印象に残ったことは、低気圧（ブリザード）のときでしょうか。昭和基地の建物の間を移動するだけでも、何度も軟雪に足をとられて雪に埋もれそうになり、危ないこともありました。またA級ブリザードでは、3日以上も外出禁止になることもあり、観測施設（地学棟）へは行けず、食堂や個室のみで時間を過ごすことになりました。また一番楽しかったことは、いつでもどこの国の基地でも、国籍に関係なく自分の誕生日を盛大に祝ってくれることです（クリスマス12月25日が誕生日ですので）。皆さんも将来、観測隊員を目指して頑張ってください。